

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝低。財源＝低。●社会教育課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
5-4	伝統文化・郷土文化の継承	市民 事業者	伝統、郷土文化を知ることによって、市民が郷土に愛着を持っている。	成果	伝統文化に愛着を持つ市民の割合(%)	53.0	51.7	51.1	52.8	51.7	53.8	53.5	↑	51.6	51.8	57.4	↑	目標達成	伝統文化に愛着を持つ市民の割合は57.4%で、前年度より5.6ポイント上昇し目標値の55%に達成した。年齢別に見ると70代以上が71.3%、30代が34.2%、50～60代が60%台、その他の年代は40%台となっている。地域別では大きな差異はない。	観光協会と連携のうえ、筑後市の伝統文化や文化財を観光資源として周知し、観光客の増加を図るとともに市民の伝統文化への愛着を図っていく。天然記念物「船小屋ゲンジボタル発生地」保護指導委員会を設置し、平成27年度から2年間は調査事業を実施する。山榎窩については平成25年度、26年度で整備事業を行ったが、残っている整備事業を平成28年度以降実施する。また、山榎窩や真木和泉守の功績の周知を図るため、平成26年度の「山榎窩ふれあい事業」に引き続き、27年度も9月から11月までの山榎窩公開事業や26年度に作成したパンフレットを利用した周知に取り組む。
				成果	筑後市の伝統文化を知っている市民の割合(%)	40.9	39.4	42.7	40.0	41.3	41.4	40.1	↑	39.6	39.6	39.2	↑	横ばい	筑後市の伝統文化を知っている市民の割合は39.2%で、ほぼ横ばい状態が続いている。知名度が高いのは、久留米餅78.1%、水田天満宮千灯明祭61.7%、石人山古墳61.6%、水田天満宮稚児風流60.1%が60%を超えている。	

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標(単位)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	伝統行事の保存・継承	市民	後継者の育成などにより、伝統芸能などが保存・継承されている。	成果	県文化財である無形民俗文化財(件)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	目標達成	県指定の無形民俗文化財は、水田天満宮稚児風流、水田天満宮千灯明、熊野神社鬼の修正会、久富盆綱曳きである。このほか、市指定の無形民俗文化財として竈神社千灯明がある。	県指定及び市指定の無形民俗文化財の保存団体に対し、保存、継承、振興を図るため引き続き補助金の交付など支援を継続する。
02	郷土の歴史、文化財の保護・継承	市民・事業者	郷土の歴史や文化財の大切さを知ること、市民の文化財や史跡などに対する保護意識が高まっている。	成果	新たな建築物等の予定に伴う埋蔵文化財の照会件数	600	662	743	568	598	701	637	800	639	688	744	800	順調	照会件数は744件で、前年より56件増加した。これまでの取り組みで埋蔵文化財調査の必要性の周知が図られ、届出漏れは殆どなくなってきたと考えられる。また、市役所内の関係部局からの工事立会い連絡などもスムーズに行われるようになっている。	今後も農業委員会や都市対策課等関係課と連携を図り、調査漏れがないように努める。出土した埋蔵文化財等について整理を行い、データベース化する。
				成果	郷土資料館入館者数及び社会教育課が主催する文化財事業への参加者数(件)	—	1,095	1,495	1,871	2,420	2,438	1,695	—	2,201	2,373	2,966	3,000	順調	参加者数は前年より625名増加し目標値に近い数字となった。内訳は、郷土資料館入館者数2,341名、山榎窩祭250名、文化財めぐり75名、山榎窩ライトアップ300名。このほか、山榎窩ふれあい事業として、ふれあい祭(参加者500名)、コンクール展(応募数157点)なども実施した。	山榎窩公開事業を実施や水田天満宮内への郷土資料館案内板設置で、郷土資料館の利用者増につなげる。
03	伝統技術の保存・継承	事業者	久留米餅などの後継者を育成することで、伝統技術が継承されている。	成果	後継者がいる伝統技術の件数(件)	3	3	3	3	2	2	2	—	2	2	2	3	横ばい	保存伝承のために指定された「久留米餅」技術保持者4軒のうち、後継者がいる事業所は2軒で、「掛川(花ゴザ織り)技術保持者1軒には後継者がいない。	保持者本人や久留米餅技術保存会、及び国県等関係機関と連携を図り、引き続き保存、継承、後継者育成を支援する。